

# 令和7年度 木津中学校中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

## 1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2-1 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

### 2-2 「大阪市版チャレンジテストplus」の調査の目的

- (1) 生徒及び保護者が、学習理解度及び学習状況等を知り、目標をもって主体的に学習に取り組めるようにする。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。
- (3) 学びの連続性を確立する観点から、客観的・経年的なデータを把握、分析し、効果的な指導方法や課題を「見える化」し、その改善に役立てる。

## 3 「大阪市英語力調査（GTEC）」の調査の目的

- (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るため、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟過程等を把握・検証する。
- (2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の充実や改善、工夫に役立てる。

## 4 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の調査の目的

- (1) 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各国公立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各国公立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

# 令和7年度 木津中学校中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

## 1 全国学力・学習状況調査

※中学校理科はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（以下、「CBT」【=Computer Based Testing】とする）で実施。

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)		平均IRTスコア	
			国語	数学	国語	数学	理科	
3年	学校	45	39	28	15.4	27.7	学校	431
	大阪市	—	52	46	6.8	11.2	大阪市	489
4月17日	全国	—	54.3	48.3	6.7	10.6	全国	503

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

## 2 中学生チャレンジテスト

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語
3年	学校	47	51.1	41.9	40.6	39.3	48.6	13.9	12.0	18.1	14.7	11.9
	大阪市	—	64.8	51.5	54.3	46.5	54.4	6.1	5.8	11.2	9.4	6.5
	大阪府	—	64.2	51.2	53.9	46.0	53.2	6.8	6.5	12.1	11.0	7.4
2年	学校	27	57.3	37.4	43.8	37.0	52.5	12.0	8.8	20.5	8.7	8.3
	大阪市	—	65.2	45.0	56.0	47.9	52.4	6.6	5.6	10.3	4.2	6.9
	大阪府	—	64.5	44.3	55.0	46.7	51.8	7.3	6.3	11.7	5.0	7.6
1年	学校	39	46.9	46.6	45.9	41.1	63.6	20.1	—	12.3	—	5.9
	大阪市	—	63.3	58.3	57.6	63.0	66.5	9.1	3.0	7.6	3.7	4.1
	大阪府	—	63.1	—	56.7	—	65.2	10.2	—	8.8	—	4.9

※ 1年生の社会・理科については、「大阪市版チャレンジテストplus」として実施

※ 1年生の理科は物理的領域を選択

※ 2年生の社会はA問題を選択

※ 3年生の理科はB問題を選択

## 3 大阪市英語力調査 (GTEC)

学年 実施月日		生徒数 (人)	読むこと	聞くこと	書くこと	話すこと
			【リーディング】	【リスニング】	【ライティング】	【スピーキング】
			(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)
3年	学校	42	111.7	113.1	107.3	96.8
	大阪市	—	117.4	110.2	146.4	98.4

## 4 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

学年	生徒数 (人)	握力	上体 起こし	長座 体前屈	反復 横とび	20m シャトル ラン	持久走 男子1500m 女子1000m	50m走	立ち 幅とび	ハンドボール 投げ	体力 合計点
	22	(kg)	(数)	(cm)	(点)	(回)	(秒)	(秒)	(cm)	(m)	(点)
2年 男子	学校	23.83	22.58	34.17	40.08	54.25		9.12	170.17	13.42	28.45
	大阪市	28.65	26.89	43.47	51.80	80.14		8.06	195.02	20.28	41.69
	全国	28.90	26.09	45.12	51.64	78.82		8.00	197.51	20.74	42.20
2年 女子	学校	20.20	19.00	39.10	40.80	37.56		9.56	150.90	11.00	37.00
	大阪市	23.11	22.70	46.32	46.59	53.12		9.03	166.76	12.20	48.14
	全国	23.15	21.70	46.99	45.74	50.60		8.97	166.44	12.43	47.58

令和7年度 木津中学校中学校のあゆみ  
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

○全国学力・学習状況調査

【結果概要】

- <国語> 全国と比較して、平均正答率において15.3ポイント下回った。
- <数学> 全国と比較して、平均正答率において20.3ポイント下回った。
- <理科> 全国と比較して、平均IRTスコアにおいて全国が503ポイントに対して431ポイントであった。

【課題分析】

国語科において、「話すこと」、「書くこと」、よりも「読むこと」の領域における平均正答率の低さが目立つ。この傾向は昨年度にもみられた。全国学力・学習状況調査の生徒質問紙への回答によると、「読書は好きですか」の問いに対して、「当てはまる」と回答した本校の生徒は34.3%で全国よりも4%多かった。また、「国語の勉強は好きですか」の問いに「当てはまる」と回答した生徒は48.6%で全国より27%多かった。数学科において、全国学力・学習状況調査の生徒質問紙への回答によると、「数学は得意ですか」の問いに対して、本校の生徒の肯定的な回答は全国比に対して14.6%低かった。また、「数学の問題がわからないときは、あらかじめいろいろな方法を考えますか」という問いに「当てはまる」と回答した生徒の割合は45.7%と全国を11.6ポイント上回った一方で、「当てはまらない」と回答した生徒の割合は17.1%で全国比に対して11ポイント高かった。理科においては他教科よりも比較的大阪府平均に近づけた。全国学力・学習状況調査の生徒質問紙への回答によると、「理科の勉強は好きですか」の問いに当てはまる」と回答した本校の生徒の割合は、48.6%と全国の30.0%を大きく上回った。全国学力・学習状況調査の生徒質問紙への回答によると、本校の3年生で家庭で日本語を用いていない生徒の割合は17.1%で、全国値よりも15.6ポイント多い。それゆえ日本語で取り上げられる各教科の出題に解答しにくい生徒はその割合程度いることがわかる。

○中学生チャレンジテスト(3年生)

【結果概要】

- <国語> 大阪府と比較して、平均点において13.1ポイント下回った。
- <社会> 大阪府と比較して、平均点において9.3ポイント下回った。
- <数学> 大阪府と比較して、平均点において13.3ポイント下回った。
- <理科> 大阪府と比較して、平均点において6.5ポイント下回った。
- <英語> 大阪府と比較して、平均点において4.6ポイント下回った。

【成果】

国語において、外国籍の生徒が多いせいか、読解問題における正答率が低いが、語句補充のような知識を問う問題においては大阪府平均との差が小さかった。

社会において、歴史的分野における正答率が低いが、地理的分野における正答率は大阪府平均との差が小さかった。また、資料から読み取る問題においては府平均を上回るものもあった。

数学においては、計算問題や証明問題における正答率の低さが目立つが、知識を問う選択問題において府平均を上回る問題もあった。

理科においては、他教科ほど府平均との差は目立たなかった。生物分野では府平均を上回った。

英語においては、5科の中で府平均との差が最も小さかった。外国籍生徒の健闘が数値に現れた。

【課題と今後の取組】

理系教科での無回答率が目立ち、計算力の低さがうかがえる。日ごろから計算に親しむような取り組みが必要である。また、外国籍生徒にとって日本語の問題に取り組むことの難しさを少しでも取り除く必要がある。日本語指導が必要な子どもの教育センター校である利点を生かし、担当者との連携を密にして言葉になじませる工夫を日々行う。

○GTTEC:スコア型英語4技能検定(3年生)

【結果概要】

- <読むこと> 大阪市と比較して、5.7ポイント下回った。
- <聞くこと> 大阪市と比較して、2.9ポイント上回った。
- <書くこと> 大阪市と比較して、39.1ポイント下回った。
- <話すこと> 大阪市と比較して、1.6ポイント下回った。

【成果】

他の学力検査で見取れるが、本校の生徒は基礎学力は決して高くはないが、英語に関しては外国籍生徒が力を発揮し、その学力を補ってくれている。聞くことにおいては大阪市平均を上回った。

【課題と今後の取組】

書くことにおいて市平均を大きく下回っているため、今後は書く練習を多く取り入れる必要がある。国際色豊かな校風をチャンスととらえ、語学力を高める工夫をこらしたペアワークやグループワークを授業で展開する。

○中学生チャレンジテスト(1・2年生)

【結果概要】

- <国語> 大阪府と比較して、平均点においてそれぞれ16.2、7.2ポイント下回った。
- <数学> 大阪府と比較して、平均点においてそれぞれ10.8、11.2ポイント下回った。
- <英語> 大阪府と比較して、平均点においてそれぞれ1.6、0.7ポイント下回った。

【成果】

教科により、府平均との差の大きさの違いが明らかである。日本語の読解力の影響を受けるものが差が大きく、そうでないものは差が小さい。また、学年が上がるにつれてその差も小さくなっていると考えられる。英語に関しては府平均との差は小さい。次年度は府平均と並ぶことも視野に入れる。

【課題と今後の取組】

基礎的な問題での不正解がみられる。基礎基本を徹底し、その定着をねらう。家庭学習の習慣がない生徒もいるので、取り組みやすい宿題から始め、放課後学習会の取組も継続し、自主的に学習する機会を演出する。

○全国体力・運動能力、運動習慣等調査(2年生)

【結果概要】

- <男子> 大阪市平均は全国平均と拮抗しているが、本校の平均はどの種目においても全国を下回った。とりわけシャトルランは24.57ポイント下回り、持久力が不足していることがわかる。
- <女子> 女子においても男子と同様の傾向が表れているが、その差は男子よりも小さかった。

【課題と今後の取組】

運動する場所も機会も少ない地域で育っているせいか、基礎体力が全国平均より数値上低い。本校においては学校規模も小さいので運動部も少なく、大阪市と比較しても運動の機会が少ない。体育科で様々な競技や運動に取り組み、またあらゆる機会健康維持のための運動の役割を教え、将来的に運動する機会を得られたときにその機会を逃さないような意識を育てることが現実的であるかもしれない。

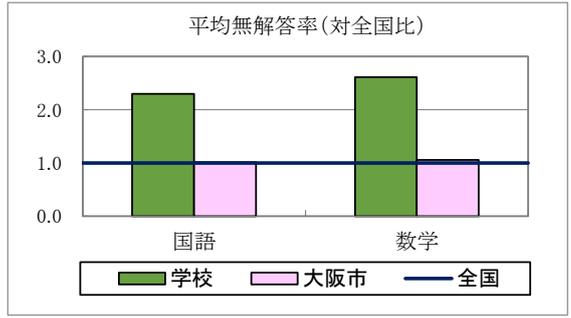
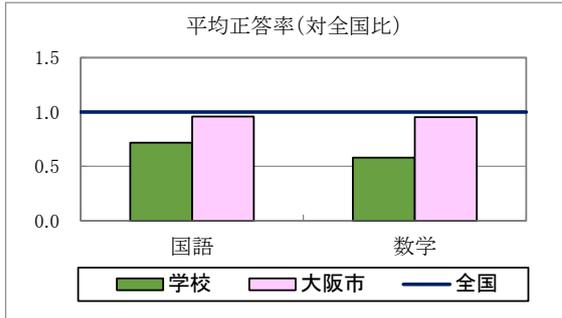
令和7年度 木津中学校中学校のあゆみ  
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【 全 体 】

	平均正答率(%)	
	国語	数学
学校	39	28
大阪市	52	46
全国	54.3	48.3

	平均無解答率(%)	
	国語	数学
学校	15.4	27.7
大阪市	6.8	11.2
全国	6.7	10.6

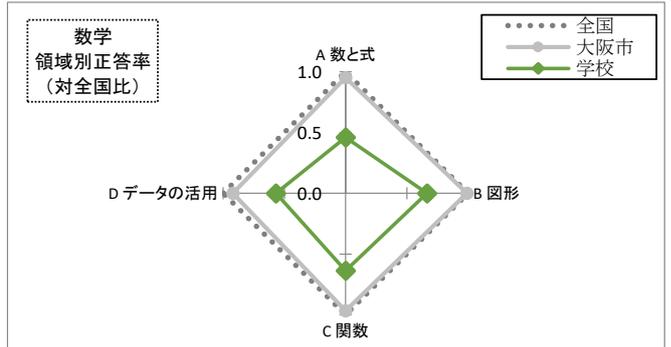
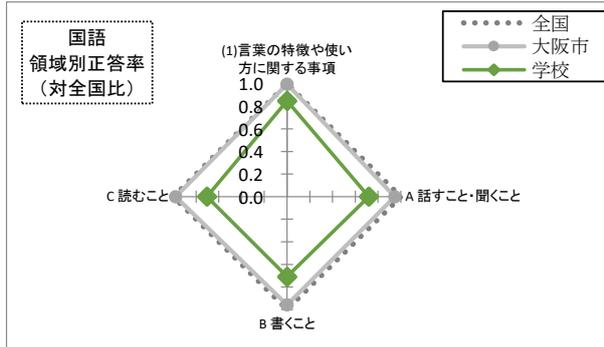
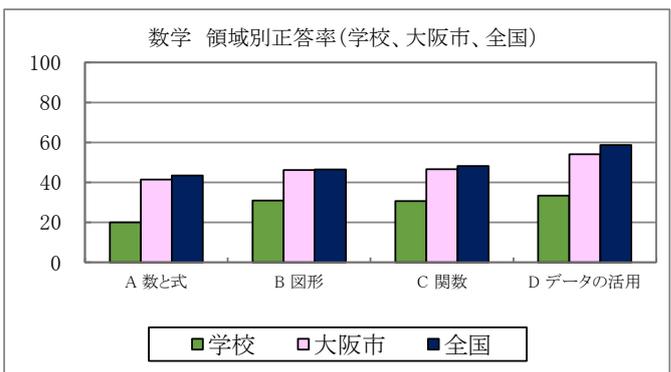
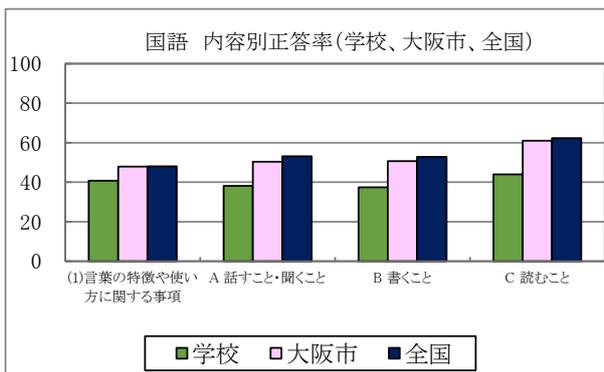


【 国 語 】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	2	40.8	47.9	48.1
(2)情報の扱い方に関する事項	0			
(3)我が国の言語文化に関する事項	0			
A 話すこと・聞くこと	4	38.2	50.4	53.2
B 書くこと	5	37.4	50.6	52.8
C 読むこと	3	43.9	61.0	62.3

【 数 学 】

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と式	5	20.0	41.4	43.5
B 図形	4	30.9	46.1	46.5
C 関数	3	30.7	46.6	48.2
D データの活用	3	33.3	54.0	58.6

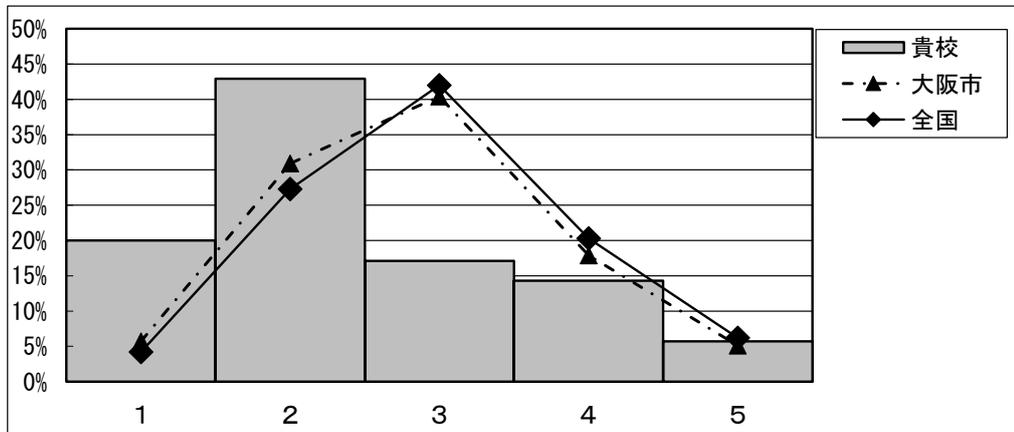
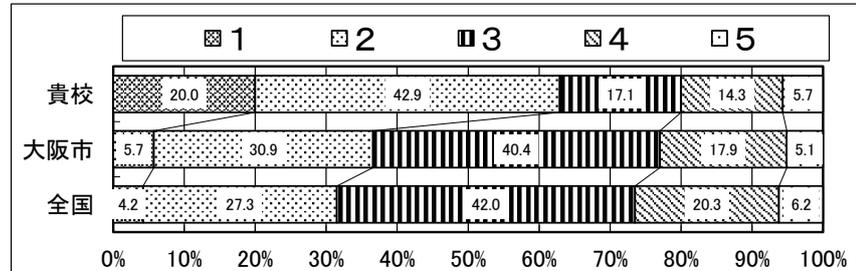


令和7年度 木津中学校中学校のあゆみ  
 —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【理科】

	平均IRTスコア
学校	431
大阪市	489
全国	503



# 令和7年度 木津中学校中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

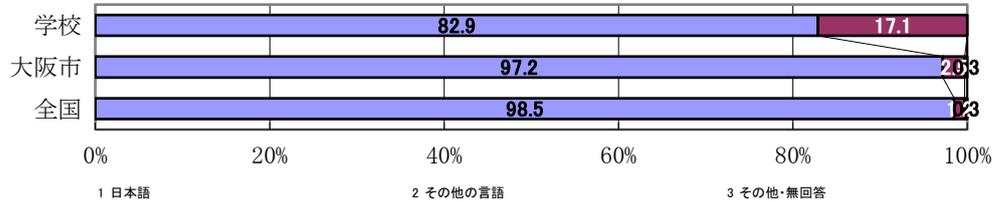
## 生徒質問より

1 2 3 4 5 6 7 8

質問番号  
質問事項

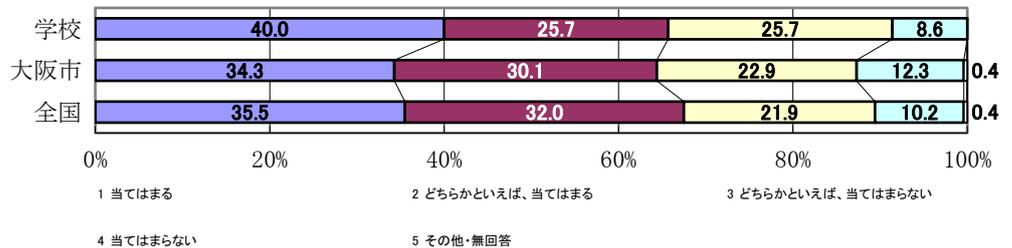
4

あなたの家では主に何語で話していますか



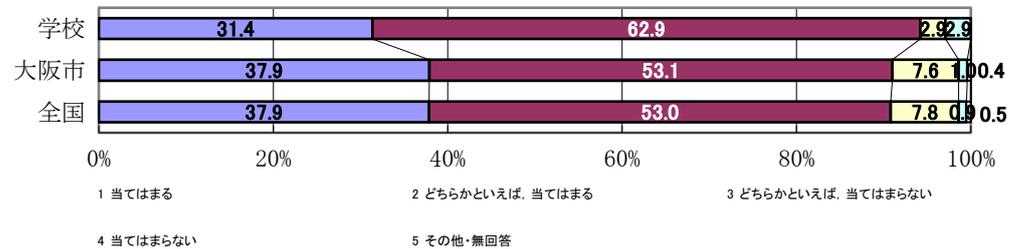
7

将来の夢や目標を持っていますか



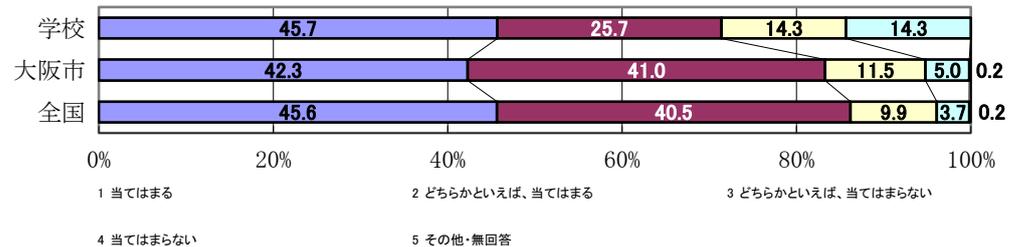
8

人が困っているときは、進んで助けていますか



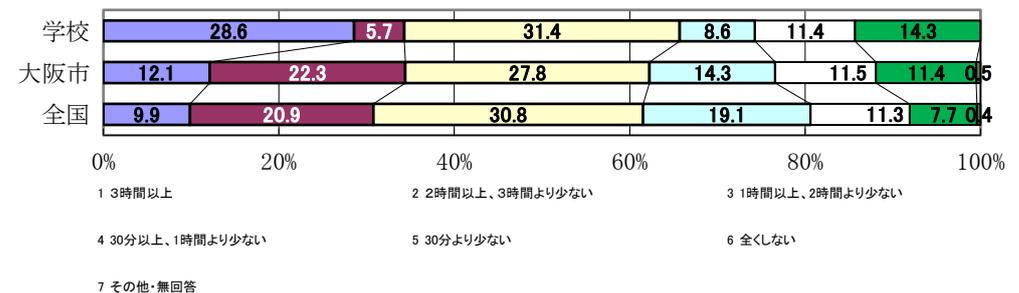
12

学校に行くのは楽しいと思いますか



17

学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)



# 令和7年度 木津中学校中学校のあゆみ

## —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

### 学校質問より

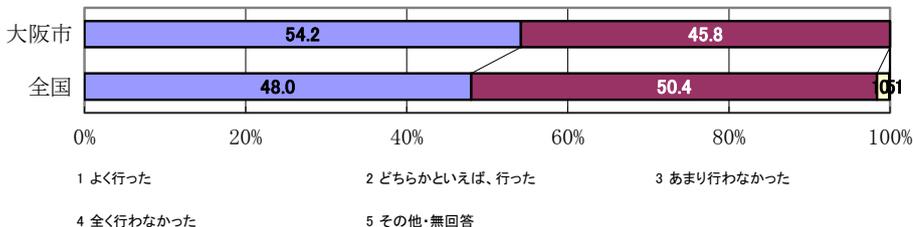
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

質問番号  
質問事項

9

調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか

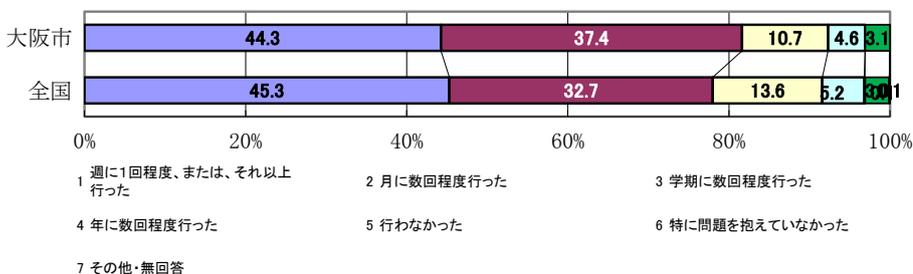
学校 「」を選択



12

前年度に、教員が学級の問題を抱えている場合、ともに問題解決に当たることを行いましたか

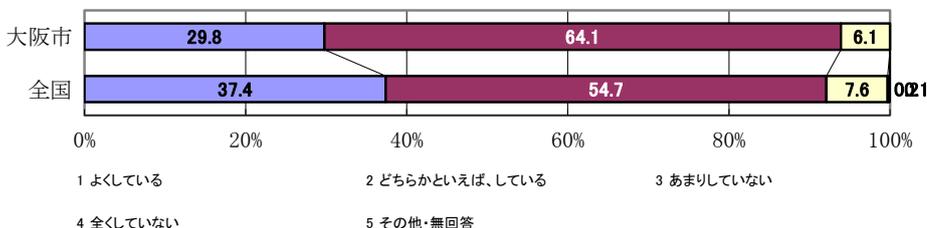
学校 「」を選択



16

指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか

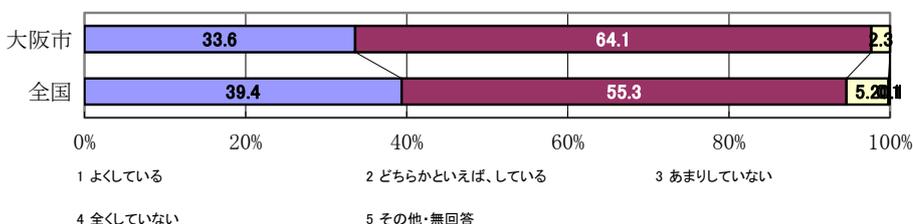
学校 「」を選択



17

言語活動について、国語科を要として、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んでいますか

学校 「」を選択



18

授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか

学校 「」を選択

